ポン！チー！ロン！「麻雀大会」

11月25日
連合町内会主催の麻雀大会が屈足さわやかホールで行われた。町内の雀豪さん24名が参加して熱戦が繰り広げられた。優勝の栄誉は菅野益次郎さんに輝いた。

ティタイム

「空を見あげる」

新得町立屈足中学校　校長　山下　英男

テレビを見ていたとき、タレントで気象予報士の石原良純さんが「みんなに空を見る楽しさを知って欲しい」という話をされていました。

内容は、空を見ていると天気や季節に係わることなど、色々なことを知ることが出来たり、時には、疲れた人の心を癒やしたりしてくれることもあるということでした。

たしかに、私たちは雲の種類で季節を感じたり、夕焼けや朝焼けなどでこれからの天気を判断したりする事があります。

そして、人は疲れたときや何か考え事をするときなど、空を見上げていることもありますよね。

日本は季節がはっきりしており、春の穏やかな霞のかかったような空、夏の暑く力強い入道雲の浮かぶ空、秋のうろこ雲の浮かぶ澄み切った空、冬の厚く重ぐるしい灰色の空など四季それぞれの空があります。

私もボーッと空を見上げて、夏の青い空を風に乗って走っている雲を「気持ちいいだろうな～と」羨ましく思ったこともあります。

何がどうしたという事ではないのですが、なぜか癒やされるというか心が洗われるというか、「さあ、もう少し頑張ろう！」という気持ちになったことを思い出しました。

日常のさりげない事が自分にとってとても大切なことであったり、止めたり変えたりすることが出来ないことって色々ありますよね。

その中に「空を見上げる」ことが入っている人はどれくらいいるでしょうか？

疲れたときや行き詰まったときなど、たまには空を見上げて雲を見たり星を見たりしてその時々の季節を感じ、心をリフレッシュしてみませんか。

心にゆとりがあると何事も前向きに考えることが出来て、思いがけず良い結果に恵まれるかもしれません。

こちら屈足駐在所

鈴木進司　巡査部長

Ｎｏ29

「年末に向けた犯罪の警戒」

（灯油盗難に注意！）

11月上旬、芽室町で灯油の盗難多発。

灯油盗難被害を防止するために

・被害防止に盗難防止器具の活用。・防犯カメラやセンサーライトなどの設置。・盗難の防止に灯油ポリタンクは鍵のかかる所へ保管。

（特殊詐欺に注意！）

11月中旬、新得町内で特殊詐欺が発生。今回の犯人側の犯行の手口「未払い金が生じているから支給入金してほしい」メールで連絡。

コンビニ電子マネー（セブンイレブンのナナコカード）で送金手続きを指定。

最近、大手通販会社を垢ったメールが出回り、同種被害に遭う方が増えています。

コンビニなどの電子マネーからの送金手続きを要求するものは、詐欺なので絶対に振り込まない。

不安や不信、そして疑問に感じることがあれば、駐在所や警察署までご相談下さい。

本

送料無料

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。

今読みたい話題作！欲しい本をお取り寄せ！

気軽にお問い合わせください。

通販は送料がかかりますが当販売所は無料です。

※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。

道新十一月号ポケットブックの御案内です。

▼ポケットブック11月号＝レパートリーに加えたい鍋レシピ

冬は熱々の鍋が恋しくなる季節。いろいろな食材が一度に味わえて栄養のバランスが良いだけでなく、簡単に出来上がるのが鍋の魅力です。本誌では肉や魚、冬野菜、豆腐が主役の鍋をはじめ、家族や仲間が集うこれからの時季にうってつけのパーティー鍋など、いろいろな味を楽しめるレシピを集めました。

配布済み。

ポケットブック次号予告
「変身スイーツ」です。
お楽しみに。

ねっとわーく屈足　検索

ねっとわーく屈足電子版
ミニコミ紙「ねっとわーく屈足」が、パソコンやスマートフォンで動画も閲覧できます。
ツイッターも屈足の話題一杯毎日更新！

じじーakira1942　検索

連続小説

加奈子

赤池　武臣

底冷えする師走の風が、オレンジ色のコートに首をすくませ、俯（うつむ）き加減に歩く女の頭髪をいっきに乱し通り過ぎてゆく。

女は大袈裟（おおげさ）に身震いすると立ち止まり、小さく舌打ちをする。

コートの襟を立て直し、ずり落ちそうになった集金粉を小脇にかかえ直すと、両手でまさぐるように襟元を交互に握りしめ、上目使いに、通称「親不幸通り」と言う中通りの華やかなネオンサインを暫（しばら）く眺めていたが、もう一度、思い出したように身震いをし、自嘲にも似たぜせら笑いを鼻から抜き、すたすたと足早に街角を廻った。

堺加奈子、これが女の本名だ。とっくに五十は過ぎて見える。だが未だ四十七歳にこの十月なったばかりだった。

三人姉妹の長女として生まれた加奈子は小さい時から苦労だけを背負って育った。

加奈子が十七歳になった時、年子の妹二人を残して生活に疲れた母親はあっけなくこの世を去った。

父親は母の死に間に合わない程だった。

その日を待っていたかのように父親は酒場通いを始め、毎晩女を連れて来てはあたりかまわずじゃれあった。

加奈子にもその行為が何を意味するのか、うすうす判（わか）ってはいたが見て見ないふりをした。

以前はよく父を窮（たしな）めた。が、その度に変形する程殴られるだけだと知ってからは、口をつぐむようになった。

そんなある夜、自分の傍に胡座（あぐら）をかき酒臭い息を吐きながら、揺すっている父親を突き飛ばし、ありったけの言葉で泣き叫び罵（ののし）った翌日、加奈子はバッグ一つを持って家を出た。

加奈子には、何処（どこ）といって行く当てはなかった。

ただ父親ゆずりの、がっしりした体格だけはどんな仕事にも耐えうるだけの自信はあった。

が、その事が加奈子は悪しかった。

そして、その血の濃さを憎んだ。

食うため、加奈子はホステスを選んだ。

つづく

<1>